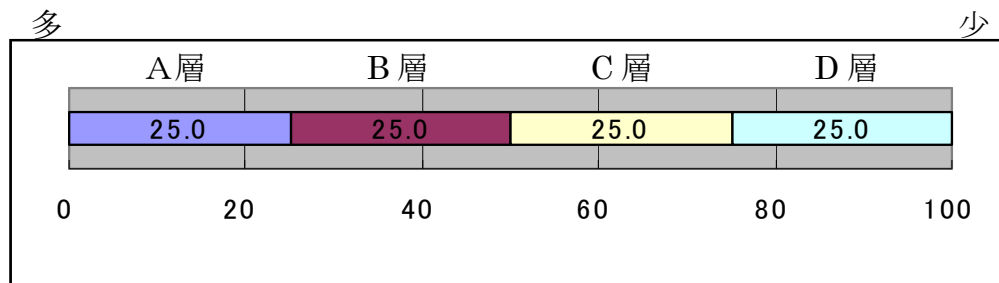


学力向上により影響を及ぼす学習習慣・生活習慣は… ～全国学力・学習状況調査から（その3）～

見附市教育委員会

学力調査結果と学習状況調査結果とをクロスさせ、学力と学習習慣・生活習慣との関連を探りました。

児童生徒を正答数の多い順に並べ、25%刻みで、上位からA層、B層、C層、D層とします。



A層とD層の児童生徒の質問に対する回答を、特に以下の5点について比較しました。

1 朝食

「正答数の多い子どもは、朝食を食べている子どもが多い」

B問題（応用力）では、A層（正答数の多いグループ）とD層（正答数の少ないグループ）で、朝食を食べている割合に、およそ10%～15%の差があります。

2 早起き

「正答数の多い子どもは、7時まで起きています子どもが多い」

B問題では、A層とD層で、7時まで起きています割合に、およそ8%～23%の差があります。

3 宿題

「正答数の多い子どもは、家で学校の宿題をする子どもが多い」

B問題では、A層とD層で、家で学校の宿題をする割合に、小学校ではおよそ15%、中学校ではおよそ25%もの差があります。

4 ノート

「正答数の多い子どもは、ノートを丁寧に書く子どもが多い」

B問題では、A層とD層で、ノートを丁寧に書く割合に、およそ10%～25%の差があり、特に小学校でその差が大きいです。

5 読書に興味関心をもつ。

「正答数の多い子どもは、読書に興味関心をもつ子どもが多い」

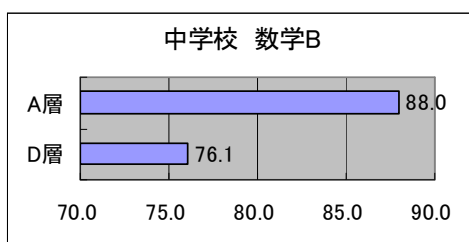
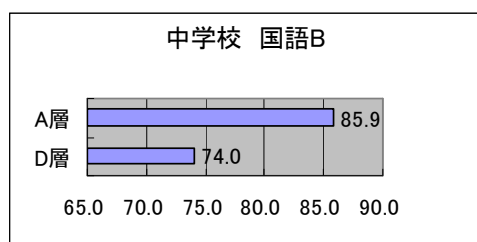
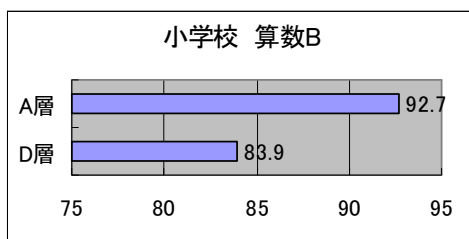
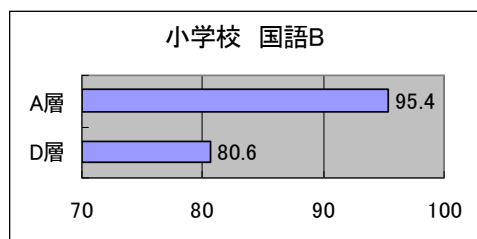
B問題では、A層とD層で、読書に興味をもつ割合に、およそ16%～24%もの大きな差があります。

他の点でも比較すると、「睡眠時間をしっかりとる」、「学校に持って行くものを、前日に準備する」、「テレビやビデオ、DVDを見る時間をできるだけ減らす」、「家の人との会話の時間をもつ」等も、学力の向上により影響を及ぼすこととして、結果に表れていました。

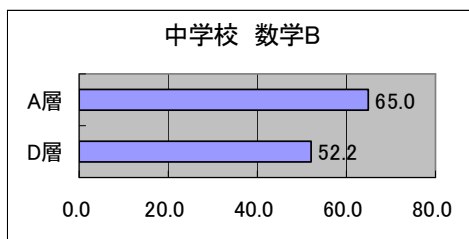
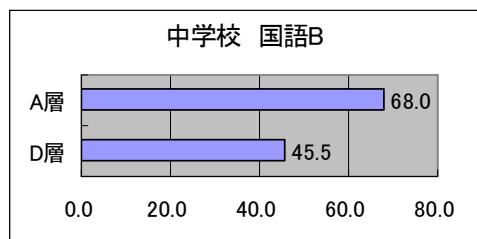
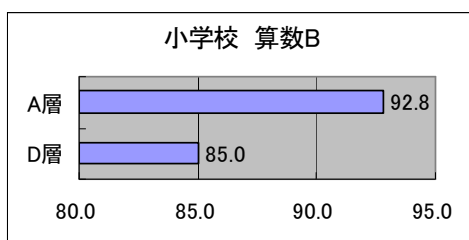
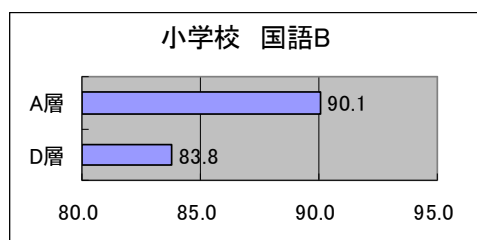
生活習慣や学習習慣は、学力の向上と大きく関わっています。よりよい生活習慣や学習習慣づくりに向けて、家庭や地域の皆様とともに、取組を推進してまいりたいと考えています。

<資料>

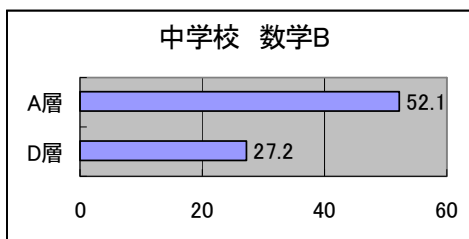
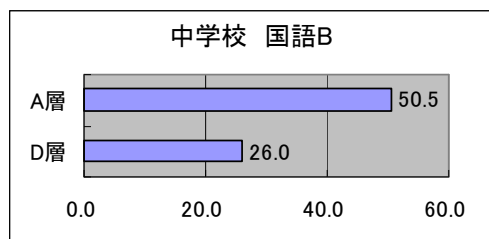
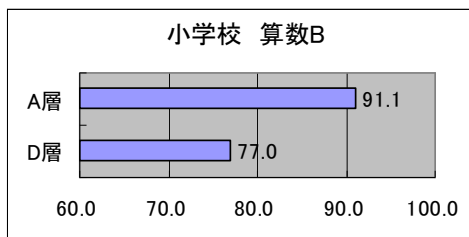
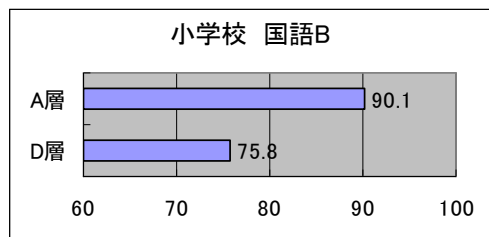
1 朝食を毎日食べる。



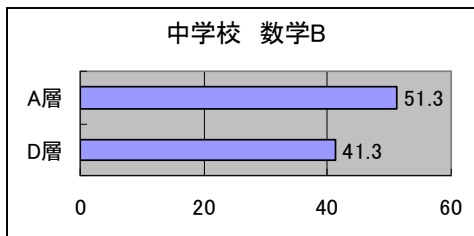
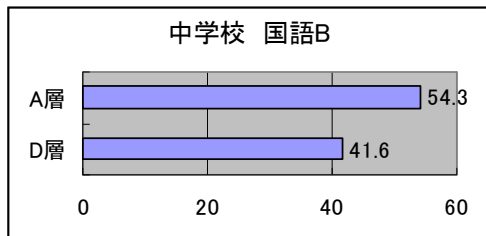
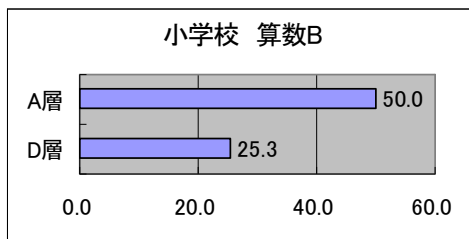
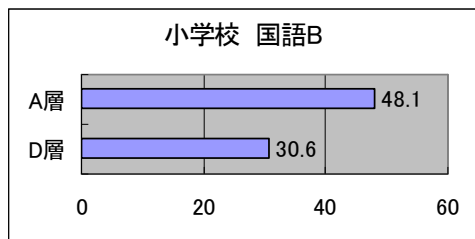
2 早起きをする。(7時まで)



3 家で学校の宿題をする。



4 授業ではノートを丁寧に書く。



5 読書に興味関心をもつ。

